

立命館大学国際言語文化研究所 重点研究プログラム

主催 文化の移動と紛争的インターフェース

「創造される他者と自己」

いま地球上のあらゆる場所でグローバリズムとローカリズムがせめぎ合っている。旧制度の矛盾と欺瞞が噴出するなか、他者と自己はどう創造されるのか。植民地的な権力構造のなかで出会う他者同士の交渉する空間を指す概念であった「コンタクト・ゾーン」はグローバリズムの進展とポスト・ヒューマン思想の台頭に適応してその外延を拡大し、学問の領域を超えることで空間概念から意味領域、さらには思考の枠組みへと変容した。本ワークショップでは人類学的な用法である「コンタクト・ゾーン」を起点に、フィールドワーカー自身を含む他者と自己の創造について考えたい。人類学、社会学、移民、映像、身体をキーワードとして、アジアからアフリカにまたがる21世紀初頭の状況を省察的に比較研究する。

プログラム

開会挨拶 小川さやか(立命館大学大学院
先端総合学術研究科准教授)

開催趣旨説明 13:05～13:15

講演 ケイン樹里安
「『ハーフ』と越境するメディア実践」

13:15～14:25
～休憩～

報告

荒木健哉 14:45～15:05
「期待したい/期待されたい人びとー宝くじ
売買からみる小売商人と客の相互関係」

今里基 15:10～15:35
「他者化されるということ・韓国にルーツ
を持つ若者の母国留学の事例から」

福田浩久 15:40～16:05
「民族誌映像に表象される自己、表象する
他者」

質疑応答 16:20～17:30

日時

2019年2月12日(火)

13:00～17:30(開場 12:30)

場所

立命館大学衣笠キャンパス創思
館401・402号教室

参加費 無料(予約不要)

講演者

ケイン樹里安(大阪市立大学都
市文化研究センター研究員)

報告者

荒木健哉、今里基、福田浩久
(全て立命館大学先端総合学術
研究科大学院生)

特別な配慮が必要な方は開催3日前までにメールにて連絡するよう願います。
アドレス gr0263px@ed.ritsumeit.ac.jp (今里)